

【2025.3改訂版】

思春期に受けておきたいワクチンについて

思春期を迎えられたお子さんをお持ちの保護者の皆様にお知らせです。定期接種ではないけれど接種しておいた方が良いワクチンもありますので、どうか接種の機会を逃さないようにしてあげてください。



1 DTワクチン (11~12歳)

定期接種

ジフテリア(D)、百日咳(P)、破傷風(T)、ポリオ(IPV)の1期定期接種では、四種混合ワクチン(DPT-IPV)か五種混合ワクチン(DPT-IPV + Hibワクチン：2024年4月から使用可能)を生後2か月から90か月未満の間に計4回接種することになっています。2期定期接種の対象は11歳以上13歳未満で、二種混合ワクチン(DTトキソイド)0.1mlを1回接種します。近年年長児や成人の百日咳が問題となっており、日本小児科学会ではDTトキソイドの代わりに三種混合ワクチン(DPT)0.5mlを1回接種することを勧めています。ただし、定期接種の2期を接種する年齢でDPTを接種した場合は、任意接種となりますのでご注意ください。

2 日本脳炎ワクチン (9~12歳)

定期接種

日本脳炎ウイルスを保有している豚を刺した蚊(コガタアカイエカ)が人を刺すことで感染します。現在関東以西を中心にして年間10人未満の発症ですが、国内の豚の多くは日本脳炎ウイルスの感染を受けており、これからも接種の継続が必要です。また中国や東南アジアなどでは流行が見られていますので、これらの地域に長期滞在する場合には接種を済ませておいたほうが安全です。

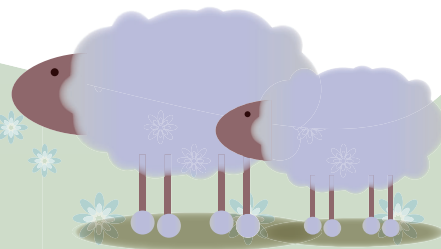
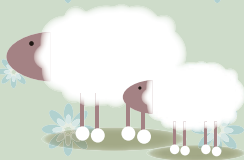
1期の定期接種では生後6か月以上90か月未満の者を対象に、通常0.5mlずつ(3歳未満の者には0.25mlずつ)を6日以上の間隔をおいて2回皮下に接種します(初回免疫)。初回免疫終了後(初回免疫の2回目終了後)6か月以上あけて0.5mlを1回皮下に接種します。2期定期接種では、9歳以上13歳未満の者に1回、0.5mlを接種します。

3 B型肝炎ワクチン

任意接種

B型肝炎ウイルス(HBV)を含む血液あるいは体液との直接接触によって感染します。HBVに持続感染している母親から分娩時に感染するだけでなく、持続感染している身の回りにいる人からも感染します。免疫がない人が感染すると急性肝炎を発症し、通常1~2カ月で回復しますが、一部で劇症肝炎を発症したり、慢性肝炎の状態になることもあります。2016年4月1日以降に生まれた子どもを対象に2016年10月から0歳児を対象に定期接種(生後2、3、7~8か月)が開始されましたが、定期接種導入前の世代の子どもたちの多くは抗体を持っていません。1回の接種量は10歳未満児では0.25ml、10歳以上では0.5mlで、4週間隔で2回、さらに1回目の接種から20~24週後に1回の計3回を皮下に接種します。

裏面に続く >



【2024.3改訂版】

思春期に受けておきたいワクチンについて

4 髄膜炎菌ワクチン

任意接種

髄膜炎菌による髄膜炎や菌血症・敗血症を予防するためのワクチンです。日本での髄膜炎菌感染症はまれですが、致死率の高い重篤な疾患です。アフリカなどの髄膜炎菌感染症の流行地域へ行かれる人はもちろんですが、寮やスポーツ合宿などで集団生活を送るお子さんたちも感染のリスクが高くなりますので接種しておきましょう。日本では2015年5月から4価結合型髄膜炎菌ワクチン（血清型A、C、Y、W-135）が接種できるようになっています。2歳以上で1回0.5mlを筋肉内に接種します。

5 ヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチン

定期接種

- 小学6年生～高校1年生の**女子**: 定期接種
- 小学6年生～高校1年生の**男子**: 任意接種

任意接種

HPVワクチンは、子宮頸がんをはじめ、肛門がん、中咽頭がんなどのがんや尖圭コンジローマなどのHPV関連疾患を予防するワクチンです。

1) 定期接種 【女性】

2013年4月から子宮頸がんの予防を目的に小学6年生～高校1年生の女子を対象に定期接種が開始されましたが、接種後の健康被害が多数よせられたためその2か月半後に積極的勧奨を差し控えることになりました。その後、国内外で有効性や安全性のデータが報告され、接種のメリットが副反応のデメリットを上回るとして、2022年4月から約9年ぶりに積極的勧奨が再開されました。現在、HPVワクチンには2価、4価、9価の3種類がありますが、2023年4月より9価のHPVワクチンも定期接種に使用できるようになっています。

2) キャッチアップ接種 【女性：定期接種救済措置】

積極的勧奨が差し控えられていた期間に定期接種の対象であった方（誕生日が1997年4月2日～2008年4月1日の女性）に、2022年4月1日から2025年3月31日までは定期接種として無料で接種が受けられる経過措置が取られてきました。2025年4月1からは、このキャッチアップ接種期間中に1回以上接種している方については、2026年3月31日まで、残りの接種（全3回）にかかる費用を定期予防接種同様に無料で受けられることになりました。なお2008年4月2日から2009年4月1日までに生まれた女子もその対象となります。

*自治体によって助成期間等、要件が異なります。詳細はお住まいの自治体、接種する医療機関にご確認ください。

3) 男性への接種 【男性：任意接種】

2020年12月から4価HPVワクチンの男性（9歳以上）への任意接種が承認されました。男性がワクチンを接種することで、HPVが原因となる中咽頭がん、肛門がん、尖圭コンジローマなどの予防に効果が期待できます。加えて、性交渉によるHPV感染から女性を守り、ひいては子宮頸がんの予防にもつながります。お住まいの自治体によっては、小学6年生～高校1年生の男子への任意接種費用が助成されます。（目黒区では2024年4月より対象者一人につき3回（接種完了）まで接種費用が全額助成されます。）

自由が丘メディカルプラザ 小児科

2025年3月改訂
日本小児科学会認定専門医
日本感染症学会専門医
齋藤 義弘

